

## NEWS

うらわ美術館ニュース

Works of Urawa Artists  
TERAUCHI Manjiro寺内萬治郎  
1890(明治23) - 1964(昭和39)「窓際」  
1934(昭和9)年  
油彩、カンヴァス  
116.5×91.0cm

この作品が描かれた年の夏、針ヶ谷の地にモダンなアトリエが完成し、寺内は浦和に居を定めています。以来、浦和画家の中核のひとりとして後進を育成しながら、画家は「明日が楽しく待ちどおしい」と語る程に、その晩年に至るまで一貫して小麦色のモデルを描き続け、“裸婦の寺内”と称賛されてゆきます。

「窓際」は、当時の洋画壇でかなり好まれた画題と構図らしく、南薫造らにも帝展出品作があります。この作品は、窓からの光を浴びたモデルの表情やコスチュームの質感などが的確に描き込まれ、着衣ながら極めて裸婦に近い初期の代表作であり、第21回風画会に出品されています。

(Y. K)

Art of Books  
TULLIO D'ALBISOLAトウリョ・ダルビゾラ(1899-1971)  
フィリッポ・マリネッティ(1876-1944)著「未来派の自由態の言葉」  
1932年  
金属にリトグラフ  
24.5×24.0×2.2cm

一見してオブジェともみえるこの作品は、未来派の詩人マリネッティと、陶芸家ダルビゾラによる本の作品です。この本は、近代の工業技術が生んだ機械のスピード感や躍動感を賛美したイタリア未来派らしく、ページや背など全ての部分が金属でできており、近代的な雰囲気と漂わせています。慣習的な文法と詩を否定し、文字を絵画のように配置することで言語の視覚化に大きな業績を残したマリネッティは、この本の頁にも絵画のように文字を配置しています。この本は、機械賛美を体現した革新的な造本と視覚的な詩の表現、さらに近代工業社会を崇拝する未来派の思想とが、小さな空間に凝縮され、存在感あふれる作品となっています。

(S. Y)

